



## ほかの生き物も助ける森の大工「キツツキ」

キツツキの仲間には世界中に約180種、国内では11種が生息し、兵庫県内では日本固有のアオゲラ、黒・白・赤のカラーリングが美しいアカゲラ、アカゲラよりやや大きいオオアカゲラ、小型のコゲラ、自分では巣穴を作らないアリスイの4種の姿が確認されています。

多くの鳥と同じように、巣は寝床ではなく、産卵と子育てのための場所です。キツツキは、適当な太さの木を見つけると、くちばしを幹にコンコンと叩きつけて少しずつ穴を広げていきます。巣はオスとメスが協同で作成し、木を叩く回数はオスの方が倍以上多いようです。完成までの日数は普通1週間から10日ほどですが、木の種類や枯れ具合などによってさらに変化します。草や枝などほかの材料は持ち込まず、巣穴を掘ることで底に降り積もった木片の上に2~8個の卵を生みます。

ヒナが巣立つと同じ巣は使いません。翌年の春にヤマガラなどの小鳥が見つめて、コケや木の皮を敷き、産卵と子育てを行います。



▲ キツツキの巣穴

小鳥の次はヤマネです。コケを運び込んで子育てや冬眠に使います。内部が朽ちて少し広がると今度は、南から渡ってきたコノハズクがヒナを育て、洞がもっと大きくなればムササビの住み家になります。途中で木が朽ちても、そこに新しい樹木が育ち、キツツキたちが生活するための森の循環が保たれます。

キツツキが残した樹洞は、知らず知らずのうちに色々な生き物の「すみか」として役に立っています。自然界の生き物はともに助け合いながら暮らしているのです。

厳しい自然の中で生きる動物も人も同じです。大切な家族、大事なお住まいをもう一度見直して、工夫して、安心して毎日が暮らせるように備えていきましょう。



キツツキ



ヤマガラ



ヤマネ



コノハズク



ムササビ

途中で木が朽ちて倒れることもあるが、新しい樹木が育ち、再び生き物の「すみか」となる

